

会議概要附属機関等の名称 安曇野市上下水道事業経営審議会

1	会議名	令和6年度 第2回 安曇野市上下水道事業経営審議会
2	日時	令和6年11月22日(金) 午後2時から午後3時15分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 305会議室
4	出席者	保尊委員、二木委員、猿田委員、牛越委員、黒岩委員、齋藤委員、加々美委員、中村委員、田中委員
5	市側出席者	丸山上下水道部長、藤森経営管理課長、西山庶務担当係長、小松庶務担当係長、中田上水道課長、重野課長補佐兼維持係長、豊田管理係長、宮澤工務係長、麻田下水道課長、中田課長補佐兼下水道担当係長、曾山下水道担当係長、木村下水道担当係長
6	公開・非公開の別	一部非公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年12月25日

協議事項等

○会議の概要

- 1 開会
- 2 上下水道部長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 議事
 - (1) 令和5年度安曇野市水道事業会計決算について
 - (2) 令和5年度安曇野市下水道事業会計決算について
 - (3) 令和5年度安曇野市水道ビジョン事業評価について
 - (4) 令和5年度安曇野市下水道事業経営戦略事業評価について
 - (5) 安曇野市下水道事業経営戦略の見直しについて
 - (6) その他
- 5 閉会

○議事の概要

- (1) 令和5年度安曇野市水道事業会計決算について
- (2) 令和5年度安曇野市下水道事業会計決算について
(資料に沿って事務局から決算概要により説明)

<質疑>

委員： 今年の年間有収率2.5パーセント減の原因がわかれば。2点目は、電気価格激変緩和対策事業の詳細、来年以降の事業見込みについて。

事務局： 原因としては、いくつか考えられるが、穂高地区と明科地区の有収率があまり良くなく、どちらの地区も布設替え等の工事を大幅に行っており、工事に伴う排泥や凍結防止等により排水量が多くなっている。また、管の老朽化に伴う漏水は全体として発生しており、有収率の改善に向けて老朽化の更新を随時行っているが、正直なかなか追いついていない。

事務局： 2点目について、政府の電気ガス価格激変緩和対策事業が令和5年2月から令和6年5月まで行われ、低圧で1キロワット当たり7円、高圧で3

円50銭、再エネ賦課金は3円ほど安くなっていた。こちらの事業は一旦5月で終わったが、8月から10月にかけて酷暑乗り切り緊急支援事業という形で引き続き行われた。また、政府の発表では来年の1月から3月も改めてやるようなこともニュースでは見聞きしている。

委員： 各家庭とか工場から出る汚水量と、流域と他の処理場に入る汚水量、この差についてはどんな差があるか、下水も供用開始してから30年近く経過し、漏れる可能性も高くなってくると思うので推移がわかれば教えていただきたい。

事務局： 流域下水道については、処理量のデータがないため現段階ではわかりません。参考までに、明科処理区は自前で処理しており、メーターを通過した水量と処理場処理場で処理した水量を比べてみたところ、100パーセントに近い値でメーターを通過した水量が処理場に到達している。
老朽化による外への漏れの心配は現段階ではないのかと考えているが、現在管路施設のストックマネジメントを行っているので、下水道公社で点検している中で、漏れが想定される場所については、国の補助金を使い、改築・改修を進めている。

委員： 私の記憶が定かではないが、マンホールの取り付けの関係で平成5～6年ぐらいまでは単純な砂付短管で接続して、その後にコンクリート巻き立てになって、その後ゴム受け輪になって、ほとんどないと思うが、当初の施工し始めの砂付短管だけで取り付けられた部分があるかもしれないと思うが老化しやすく漏水しやすい心配がある。

事務局： その状態を理解はしているが、現段階でいつ頃まで砂付短管で接続していたか、これから精査していく。
耐震化の観点から、耐震設計前の管についての対応をこれから考えていきたいと思っている。その中で委員の心配も解消していくと考えている。

委員： 7ページの上水道のところで聞きたいが、コスト対長さで割合が出てくるが、①主要管路敷設事業と②既存管路更新事業では、同じように耐震化を進める工事だが、単価がだいぶ違うが。

事務局： ①主要管路敷設事業と②既存管路更新事業ということで、どちらも敷設している管については、耐震の管渠を布設している。1番の違いは主要管路については、ダクタイル鋳鉄管を布設しているが、既存管路の更新事業については、ダクタイル鋳鉄管と配水用のポリの管も使用しているため単価が安くなっている。

委員： 下水道の8ページ、今期、汚水量が増えている説明はいただいたが、令和1年2年についても、大幅に伸びているが、何か要因があったか。

事務局： 1つ考えられることは、新型コロナウイルス感染症があるかと。屋外での活動が制限されたこともあり、在宅する時間が増えたことが要因の1つではないかと推測する。

委員： 先ほど委員から耐震化の話があったが、11月の頭に国から災害時の主要な施設の耐震化の情報があった。確か、全国も長野県も15パーセントくらいという話だが、安曇野市はどうか。概要も含めて聞きたい。

事務局： 11月に国交省からホームページに、「能登半島地震の教訓を踏まえる中で、災害時においても上下水道システムが機能を持続するに当たって重要となる施設の耐震化状況について緊急点検を実施しましたので、その結果を公表します」ということで公表された。上下水道共通の主要な施設ということで耐震化率15パーセントと発表になっている。

安曇野市のビジョンの中では、重要給水施設というものを55箇所挙げており、内容的には国で言っている重要施設の要件とほぼ同じであるため、安曇野市としては重要給水施設を重要施設と考えている。

その中で先ほどの55箇所のうち、耐震管が繋がっている部分ということで考えると、三郷の上長尾と穂高の上原の配水系16箇所が完了しており、率にすると、29.1パーセントという現状。

(3) 令和5年度安曇野市水道ビジョン事業評価について

(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員： 水道利用者のニーズの把握についてCになっているが、この理由が市の全体のアンケートの中に水道の関係も入れて、把握しようという手法でこの方法では、ある程度原課で知りたい、事務局の聞きたい情報を把握するには、非常に厳しいと思う。計画的に調査の際に積極的に入れていく手法もあるが、今のままではずっとCが続くと思う。考え方、やり方をもう少し工夫する必要があると思うので検討していただきたい。

事務局： 今年についても、アンケートを取るという話の中で項目を挙げたが、残念ながら採用されなかった。市のアンケートに混ぜることは難しいので、水道として何か独自の方法を考えていかなければいけない。検討をしていく。

委員： 住民の皆さんが何を期待しているのか、どこに反映させるのか、事務局でまず整理をして、それを上手にアンケートに反映するか、まずはなぜアンケートを取らなければいけないのか検討しながら行っていただきたい。

(4) 令和5年度安曇野市下水道事業経営戦略事業評価について

(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員： 下水道で網掛けになって完了した項目で、上水道については最終目標値の網掛けが抜けて都度改定予定という意味表示だと思われるが、下水道については最終目標値も網掛けになっているが、見直しの予定は。

事務局： 資料の作りに問題があったかと思う。下水道についても適宜見直しを行いながら進めていく。

(5) 安曇野市下水道事業経営戦略の見直しについて

(資料に沿って事務局から説明)

<質疑>

委員： 今の見直しの話は、経営戦略に3年ごとに見直しを行うとなっており、その中でも計画と実績との乖離が著しい場合や、投資財政に係る条件等が変更となる場合には随時見直すという方針。それに伴うもので、もう少し詰めていってこの中の数字が入れ替わるということで理解すればよいか。

事務局： その通りです。

委員： これを見せていただくと、暫くは料金の値上げをしなくて順調に経営していけるということで結構なのだが、建設改良費について、通年金額が計上されているが、具体的にはどんな予定か。

事務局： 主なものは、ストックマネジメント計画、管路の老朽化対策、長寿命化対策を続けていくことになる。

委員： 人口予測の話があったが、市の人口の予測との整合性はあるか。

事務局： 国立社会保障人口問題研究所の最新予測を使っている。

委員： 国立社会保障人口問題研究所の予測が当面10年くらいだが、この先ももっと減る。人口は確実に減る、安曇野市はどうなるかわからないが、今の7割か悪いところだと5割になるという話もある。いずれにしても、急に人が増えるわけでもなく、相当人が減り年寄りが増えていく。そういう中で、上下水道のサービス、財源の確保など凄く大変になるのではと思っている。当面、計画は計画としてもう少し長いスパンで考えていかないといけない時期になっていると思う。

(6) その他
次回以降開会予定について